

エドヒガンを植栽 —箕面自然休養林管理運営協議会—

平成26年11月8日、箕面国有林内の体験学習の森に、箕面自然休養林管理運営協議会による桜の苗の植樹と、シカによる樹皮剥ぎを防止するための樹木保護ネットの取り付けが行われました。ボランティアで作業してくれたのは、同協議会の活動に協賛されているアサヒビール株式会社の社員の方たちです。

植えた桜は、体験学習の森が所在する北摂地方の里山景観をいろいろ「エドヒガン」と「ヤマザクラ」です。順調に育てば6～7年後にはきれいな花を咲かせてくれるでしょう。桜の苗は、植栽地周辺で集めた種子から大阪府立園芸高等学校(池田市)の生徒たちが、心を込めて育ててくれました。

樹木保護ネット張りは、大阪府北部農と緑の総合事務所から、シカによる樹皮剥ぎを防止する樹木保護ネットの目的・効果の説明と、シカ被害を受けないためのネットの張り方の指導を受け、樹木にネットを取り付けました。



桜を植えてくれたアサヒビール社員の皆さん



エドヒガンを植え付け



大阪府立園芸高校が苗を育成



樹皮剥ぎ防止ネット取り付け



箕面自然休養林管理運営協議会
中野会長からあいさつ



◆エドヒガン (バラ科サクラ属)

本州、四国、九州に分布しているが、自生地は限られており(猪名川上流域など)、各地で大切に保護されている。日本に自生する桜の中ではもっとも長寿で、樹高は20m以上、幹の直径は1mにもなる。開花時期はソメイヨシノよりは早く、葉が出る前に咲く。左の写真は箕面国有林の体験学習の森の中のエドヒガンの大木(高18m、幹の径82cm)で、開花時期に訪れる人を楽しませてくれる。箕面森林ふれあい推進センターでは、北摂の里山の特色のひとつであるエドヒガンの増殖に取り組んでいる。

木ぎれで動物の足跡を作ろう！

近年、増えすぎたニホンジカによる農林業被害、生物多様性の危機等が問題になり、農地や森林を柵で囲ったり、捕獲による頭数調整の対策を行っています。

しかしながら、多くの子どもたちは、そういった現状になかなか気づく機会がありません。そこで、当センターではイベントの機会を使って、ニホンジカによる被害などのお話をした後に、木片を使って野生動物の足跡を作ることで、田んぼや畑などに残っている足跡を見た時に「ここにもニホンジカが来て、荒らしているのか」と実感として理解できるような取組をしています。小さなお子さんでも、簡単に作ることができて楽しみながら学習できます。



シカの足



近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

野生動物の足あとを作ろう！

まずは勉強



森の中には、シカ・タヌキ・キツネ・クマ・サルなど生息しています。ところが近年、シカが増えすぎて被害が拡大しています。

例えば田んぼや畑にやってきて農作物を食い荒らしたり、山に植えた木の苗をかじったり大きくなった木の皮をはいで、枯らしたりしています。山の中の2m以下の苗木の葉っぱは食べつくされて、刈り込んだようになり、やがては土が流出し山が崩れることにもなりかねません。各種の対策をしなくてはいけない状況です。

そこで、シカなどについてよく知るために、足あとを作ってみましょう。

A シカの足あと

(これを作れたらBのタヌキを作ってみよう)



- 1 木へんの形のあったものをさがす。
木へん(小)をさがす。
- 2 木工ボンドでバランスを考えてくっつける
- 3 紙にシカの足あとと書いて木工ボンドでつける

B タヌキの足あと



- 1 木へんをさがす。
- 2 木工ボンドでバランスを考えてくっつける
- 3 紙にタヌキの足あとと書いて木工ボンドでつける

箕面森林ふれあい推進センターでは、主に京都、大阪の都市周辺の国有林野をフィールドとして、NPO、ボランティア、地域住民等による自主的な森林づくり、里山の整備、自然再生活動、森林環境教育などへの技術指導等の支援に取り組んでいます。

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

TEL:06-6881-2013/FAX:06-6881-2055

〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局 3F

URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

